

2024年度 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制整備計画評価

	目標	取り組み	評価	達成度
1	看護補助者・多職種との連携及びタスクシフト/シェア	夜間看護補助者100対1、看護補助者25対1体制の継続 介護福祉士配置による看護業務のタスクシフト 他職種とのタスクシフト/シェアの推進	夜間看護補助者100対1体制を継続し、夜間の看護業務を協働することで夜間の休憩時間も95%確保できており、看護職員の負担軽減につながっている。夜勤帯の時間外勤務は、全体で11.4h（+5.3h）であり、引き続き時間外勤務を削減できるよう取り組む。 看護補助者25対1体制は継続できているが、院内全体で見ると日勤帯の看護補助者の不足がありリリーフ体制をとっている。看護職員の時間外勤務は平均9時間15分（-7分）。日常生活援助のタスクシフト/シェアへの課題が残るため、高卒採用、常勤・非常勤採用要件、日勤のみの常勤嘱託雇用形態を開始し看護助手の採用を促進している。引き続き取り組む。 介護福祉士配置により、レクリエーションの実施や日常生活援助を始めとした看護業務の協働ができているが、配置上、介護福祉士としての専門性のある活動には課題がある。リプレイスを機会とし、電子カルテへの記録を開始する。 テープカット等業務の一部を事務にタスクシフトした他、タオル・寝衣等の入院セットの患者個別配送を外部業者にタスクシフトした。救急外来では救命救急士との協働ができた。持参薬の運用について薬剤部と検討中。医師からのタスクシフトにも備え、働き方改善タスクシフト委員会で、他部門とさらなる協働ができるよう取り組む。	70%
2	多様な働き方を推進し、人的・物的資源の確保	看護助手の雇用形態を見直し採用を促進する。 物品（離床センサー、エアマット、抑制帯等）の中央管理を目指す。	高卒採用、常勤・非常勤採用要件、日勤のみの常勤嘱託雇用形態を開始し看護助手の採用を促進している。採用人数10人。引き続き取り組む。 物品の中央管理について現在検討中。	50%
3	効果的な働き方	クリニカルパスの推進 看護師の適正配置と時間外削減	クリニカルパスの修正（7割）・新規作成7件に医師とともに取り組んだ。 日々、看護師の適正配置とリリーフ調整を行い、救急病棟と内視鏡室の協働、ICUと手術室も協働にも取り組んだ。時間外勤務は均9時間15分（-7分）となった。今後は効果的な働き方として看護方式の再検討、夜勤の時間短縮に向けて取り組む。	70%
4	心理的安全性のある組織風土作り	主任会を中心に心理的安全性のある職場作りに取り組む。	満足度調査を実施し、看護師の総合評価の偏差値は、院外比較で56.67であった。満足度調査からは人間関係が良くなった結果の部署が増加した。「雰囲気や人間関係」の評価は高いが「精神的な不安」の評価が低いため、不安な要因を明らかにし取り組む必要がある。働きやすい職場環境の目標へ移行する。	80%
5	医師の働き方改革への貢献	医師から要望のある業務についてタスクシフトの計画・実施 特定行為研修修了者の育成と特定行為分野の拡大	化学療法・術前のルート確保、男性の膀胱留置カテーテル挿入、ICUにおけるAライン抜去、外来における筋肉注射のタスクシフトを行った。また、救急外来における胸痛時のプロトコルの運用を開始した。4例実施し、診療時間の短縮につながった。さらに、CCTの特定行為看護師による動脈血採血の包括指示の運用を開始した。 次年度は、血管撮影・血管内治療前のカテーテル留置や介助、小児の静脈採血、検査説明のタスクシフト/シェアについて検討し取り組む。 特定行為研修修了者13名。麻酔科パッケージの運用を開始予定。PICC挿入と感染管理の2区分を新たに研修予定。	100%
6	医療DXの推進	眠りスキャンの導入 電子カルテリプレイスを機会に、スマートフォン、バイタルサイン連携等の導入	9部署に眠りスキャンを導入した。患者の睡眠状況を把握し、覚醒に合わせて効果的に看護介入できるよう取り組み中。1部署、質改善で発表できた。今後評価していく。 2025年5月のリプレイスで、スマートフォン、バイタル連携システム（体温、血圧計、血糖）、電子問診票等を導入と、空床管理システム等機能改善を計画した。機能を活用し、記録の短縮、時間外勤務の削減に取り組む。次年度に評価する。	100%

看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制整備計画

	目標	具体策
1	多様な働き方を推進し、人的資源を確保する	①業務の切り出しを行いタスクシフトを検討する ②物品管理の中央管理等の多様な働き方の導入 ③夜勤時間等の働き易い勤務シフトの検討 ④障害者雇用の人材活用 ⑤手術室看護師の確保のための働き方の検討と処遇改善
2	看護補助者・他職種と連携しタスクシフトができる	①日常生活援助のタスクシフト実施 ②介護福祉士の記録の検討 ③介護福祉士の業務確立 ④夜間看護補助体制加算100対1継続 ⑤看護補助者の直接雇用の推進 ⑥他部門と協働したタスクシフト
3	効率的な働き方を考え業務を改革する	①看護提供方式の検討 ②パスの改善と推進 ③包括指示の推進
4	働きやすい物品管理	①血圧計、体温計等看護物品の整備 ②物品の中央管理（マットレス、抑制帯、離床センサー等） ③臥床患者の体重センサーを導入
5	適正配置により部内全体で看護を提供する	①計画リリース体制の確立 ②配置を数値化し各部署の適正配置から勤務計画表を作成する ③適正配置数に基づき傾斜配置 ④師長会の目標として取り組む
6	医療DXを活用した効率的な働き方	①電子カルテへのバイタル連動のシステム導入 ②ロボットを導入し、メッセージのタスクシフト ③医療DXによるタスクシフトを推進 ④眠りスキャンを活用推進 ⑤ナースコール更新による効率的な働き方の検討
7	スペシャリスト（専門看護師・認定看護師・特定行為研修修了者）の処遇改善	①週1回の活動時間を確保する ②医師のタスクシフトに専従する場合は手当の検討